

「あいさつ」について考える

2年生道徳の授業で「まほうのあいさつ」という資料を用いて「あいさつ」について考えました。

他の人との関わりで気持ちの良いさわやかなあいさつができることは大変重要なことです。学校、家庭、地域、どの場面でも子どもたちが明るくさわやかにあいさつできるように育てていきたいと思います。

授業の終わりに、毎日、子どもたちの見守りをしてくださっているスクールガードの〇〇さんからの手紙が紹介され、子どもたちはじっと聞き入っていました。

「おはようございます」
「こんにちは」
「さようなら」
皆さんは一日に何度、このあいさつをしているのでしょうか。
「おはようございます」は一日の始まりの挨拶です。
元気よくできたら、さわやかな一日を過ごすことができるでしょう。「こんにちは」はお昼の挨拶ですね。学校にお客様が見えた時、道で会った人たちに元気に挨拶しましょう。
「さようなら」は気をつけてお家に帰りますという、一日のしめくくりの挨拶です。
元気に挨拶できる人は、誰からも好かれる人になります。
また、「挨拶」は自分の心の「とびら」を開けるコミュニケーションだと思います。
お家でも、学校でも、地域でも、元気のいい「挨拶」が続けられるように願っています。

「挨拶」の「挨」は「心を開く」、「拶」は「近づく」という意味、自分の方から心を開いて相手に近づいていくというのが本来の意味だそうです。